

語いと英語教育(11)

- A 基本語いの定着化
- 授業の中でどのように語いをふやすか -

- B CLT(Communicative Language Teaching)と **Communicative Functions**

- C AET(Assistant English Teacher)に関するアンケート調査のまとめ

1988年2月18日

本研究に携わった研究員

石津谷 進	後関 正明	長 勝彦	青木 弘子	鬼山由美子
備里川正人	原田 博子	二宮 正男	鶴田 峰子	日臺 滋之
橋本 りえ	市川きみ子	吉岡千恵子	樽井 泰子	鏑田すみ子
田中 義則				

目 次

A	基本語いの定着化	
	- 授業の中でどのように語いをふやすか -	139
	1. 第3年次の調査対象生徒の反応	139
	2. Bingo Gameをより効果的にするために	141
	3. 生徒がコンピュータを使用できる場合の語彙習得ソフト	
B	CLT(Communicative Language Teaching)と Communicative Functions	
	1. はじめに	142
	2. 調査の方法	143
	3. 調査結果	141
	4. 今後の課題	
C	AET(Assistant English Teacher)に関するアンケート調査のまとめ	144
	1. 各学校からのアンケートのまとめ	145
	2. AETのアンケート	146

編集後記

目次は発表時のもので、ページの示されていない項目は、このダイジェスト版では省略されています。

A 基本語いの定着化

- 授業の中でどのように語彙をふやすか (Part 2)-

-Bingo,Guess Work,Pair Work & Skit-

「外来語と英語教育(1)」から「語いと英語教育(10)」の継続10年間の研究成果を、日常の授業の中に積極的に取り入れ、その授業実践の対象としてきた生徒（墨田区立両国中学校現在3年生）の第1・2学年次の英語学習活動、生徒の反応及び変容等は、60年・61年度の研究部研究発表会で報告してきた。

「すべての生徒が授業に参加でき、わかって、楽しく、自ら挑戦する授業」の展開場面は次の6場面を柱に構成し、3年間継続して行ってきた。

Bingo Game

- 語い（外来語もふくむ）を定着させる場面 -

Guess Work

- 語いを増やし、文型の定着を計る場面 -

Pair Work

- 語い及び文型の定着を計る場面 -

Skit

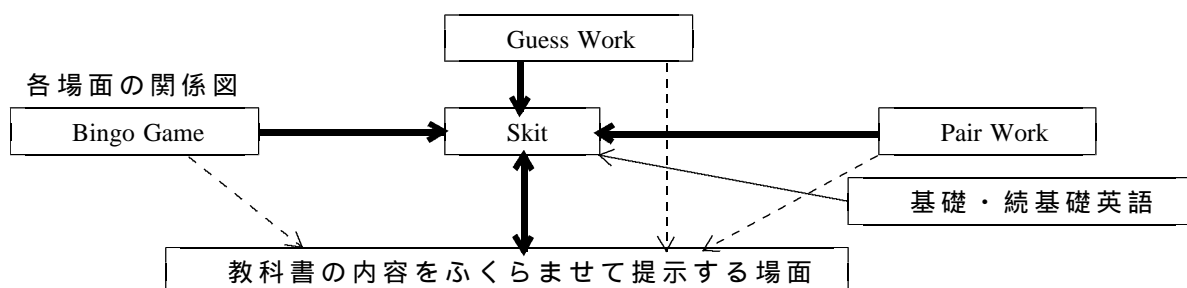
- Hearing,Speaking の言語活動を行わせる場面 -

教科書の内容をふくらませて提示する場面

- 総合的な言語活動を行わせる場面 -

N H K ・ 基礎英語 ・ 続基礎英語

- 語彙・文型を増やし、Skitの資料源となる場面 -



毎時間の授業の中心は＜教科書の内容をふくらませて提示する場面＞におくが、英語学習の到達目標を＜Skit＞- Hearing-Speaking の言語活動を行わせる場面 - においている。

1 . 第3年次の調査対象生徒の反応

元来、外国語をマスタ - するには強い学習意欲と継続的な学習が要求される。中学入学当初はどの生徒も英語の授業に目を輝かせているが、5月の末ごろからひとりふたりとその目の輝きも鈍り、やがて消え失せてしまう。学年が進むにつれて、その数が激増し、教師自身も教えることに自信を失い、その結果少々開き直って今までの情性で授業を行った経験はないであろうか。研究部による「すべての生徒が授業に参加でき、わかって、楽しく、自ら挑戦する授業」に関する3年間の継続的な研究成果は、第3年次調査対象生徒の意識調査結果で1つの答えがでたものとして、ここに発表する。

調査対象生徒：墨田区両国中学校3年生 218名(男子119名・女子99名)

調査実施日：昭和62年12月20日

調査方法： の数を制限せずに、該当する項目を選ばせた。一部記述式・記名式とする。

調査項目：

1. あなたは英語の授業の中で楽しい場面があるとすれば次のどの場面ですか。

- a. 授業の最初に英語であいさつをするとき 4.5%
- b. dictation(書取テスト)をするとき 2.7%
- c. ビンゴゲームをやる時 90.3%
- d. 次の英語の授業で行うビンゴゲームの用紙に英単語を書き込むとき ... 6.4%
- e. ロシヤ人形を用いてゲスワークをやる時 61.0%
- f. 前時に学習した教科書の中に出てきた英単語をフラッシュカードを見ながら発音練習をするとき 10.5%
- g. 前時に学習した教科書の本文を音読する時 4.5%
- h. 音読した成果の星の数を英語で質問されるとき 11.0%
(本文を5回音読したら星を1つ教科書に記入することにしている)
- i. スキット(寸劇)をやる時 30.2%
- j. きょう学習する教科書の本文の内容を英語で話してくれるとき 9.6%
- k. 教科書の本文について英語で質問され、それに答える時 14.6%
- l. 新しい単語の発音練習をする時 9.1%
- m. 本文を先生について音読する時 6.4%
- n. 本文を自分で音読する時 2.7%
- o. 本文の内容について質問され、それに答える時 12.8%
- p. 本文の説明を聞く時 9.6%
- q. ペアワークをする時 66.9%
- r. ビデオカメラの前で英語のスキットや暗唱をする時 8.2%
- s. その他 41.7%

(注) 各項目のあとの数値は調査対象生徒(218名)の中 をした生徒の数の割合をパーセントで示したものである。(小数点第2以下切り捨て)

研究部が意図した「語彙を定着させる場面」の Bingo ゲーム(90.3%. 218名中197名)

「語彙及び文型の定着を図る場面」の Pair Work(66.9%), 「語彙を増やし、文型の定着を図る場面」のロシヤ人形を用いての Guess Work(61.0%), 「Hearing, Speakingの言語活動を行わせる場面」のスキット(寸劇)(30.2%)を、生徒は英語の授業の中で楽しい場面として上位4つの中に挙げている。

語彙を修得するには、その語を絶えず見聞きすることである。Bingo Gameは、ゲームを行い、飽きることなく、90パーセント以上の生徒が楽しみにしているゲームである。1ゲーム2~3分で終了し、語彙が確実に定着するBingo Gameを、是非試みて欲しいものである。

2 . Bingo Gameをより効果的にするために

1. 1年の最初の授業から楽しめる Bingo Game

Bingo Game を考案して、各研究部員がそれぞれの学校で実践してから3年になる。単なる遊びではなく、英語指導方法の1つとして定着した。毎時間の授業で行い、3年間続けても生徒は飽きることなく9割以上の生徒が楽しみにしている。 - 中略 -

アルファベットのなにも教えていない中学校1年生の最初の授業から Bingo Game は楽しめる。しかも、毎時間5分から10分行うことによって、5月末頃までには、中学1年のテキストに出てくる単語(名詞、形容詞、副詞、動詞)の意味及び発音はマスターしてしまう。是非、新1年生の最初の授業から試みてほしいものである。

a. 新一年生用の Bingo Game 用紙

資料 1

LET'S ENJOY BINGO

Date: _____
 Class () No. ___ Name _____

B					
I					
N			FREE		
G					
O					

- B: りんご 熊 さくらんぼ 犬 象 カエル キリン 馬
- I: アイリス ジャガー コアラ ライオン メロン クルミ ミカン パンダ
- N: うずら バラ 白鳥 トラ あひる すみれ 鯨 キツネ
- G: ゆり しま馬 電車 自転車 ヨット 飛行機 船 太陽
- O: テニス 野球 バスケボール バレーボール サッカー ラケット カバン グローブ

b. Bingo Game の語彙の選択

資料1のゲーム用紙は検定教科書K社の1年用のアルファベット及び次の頁にある動植物・スポーツ等の名称を日本語で提示してある。

c. 用紙の記入

生徒にB, I, N, G, Oの語群より単語を選ばせ、用紙のそれぞれの欄に記入させる。

d. ゲームのやり方

教師は、「B ... dog B ... dog, I ... Koala I ... Koala, N ... rose N ... rose, ...」と英単語を読み上げる。生徒は先生が読み上げた英単語に相当する日本語の「犬」「コアラ」「バラ」が自分の用紙に記入してあったなら、その日本語を で囲む。あとは従来のBingo Gameと同じである。毎時間2回ぐらい行い、5時間ぐらいで、「キリン」「giraffe」, 「熊」「bear」とそれぞれの単語が、日本語と英語の音声とが結び付く。

2. Bingo Game 用紙をコンピューターで作成

- 省 略 -

3. 生徒がコンピュータ - を使用できる場合の語彙習得ソフト

- 省 略 -

B C L T (=Communicave Language Teaching)とCommunicative Funcitons

1. はじめに

東京都中学校英語教育研究会・研究部では、かねてより”外来語の問題”、”基本語いの問題”そして”授業の中でどのように語いをふやすか”などの問題について長年、研究を続けてきた。

そして、数年前からC L T (=Communicative Language Teaching)の充実についての問題にも関心を示し、昨年度の発表では、C L Tについて次のような点に関して、その考えを述べた。

1. C L T 研究の必要性 2. C L T の共通特徴 3. 日本の教育現場におけるC L T の取り扱い方 4. C L T に必要な諸要素 5. 教師の果たす役割と活動 など。

現在、我々の実際の授業の中では、どちらかと言えば context から遊離した一文の構造や意味の理解と練習に重点をおいてきたことは否定できないように思う。それでは、生徒に usage を身につけさせることはできても、use の域まで高めることはできないであろう。

言語知識 (linguistic knowledge) を与えることが、伝達能力 (communicative competence) をつけることにただちにつながることはないのであって、この養成には、より communicative な drill が必要であることは、海外における諸々の実験結果から明らかにされている。即ち、生徒に英語を使って「何かをする」体験を、より多くもたせればもたせるほど伝達能力は高まるということである。「われわれは、ことばによって、報告したり、質問したり、依頼したり、命令したり、勧誘したり、感謝したりすることができる。その他にもいろいろな意図や感情を表現することができるのである。言葉の果たす、このような伝達上の機能 (function) を重視して、もっと直接的に、学習者が伝達能力を習得し、実際にコミュニケーションが行えるように、教材を整え、指導」することがC L T であると青木昭六氏ほか(1985)は主張している。(注1)

そこで、どのように生徒に伝達機能 (language function) を果たす体験を持たせるかであるが、生徒の発達段階と、限られた指導時数の中では、教室における oral interaction activities の中に盛り込むべき function の種類にも限度がある。また、ある function はある特定の言語形式 (language form) で表されるのであるから、学年別にどのような種類の function をどのような種類の form で指導するべきかをしっかり押さえておく必要がある。この funcion / form の選定にあたっては、oral interaction activities に先だって、教科書を通して生徒がすでにさらされている function/form にはどのようなものがあるかをよく知る必要がある。

そこでわれわれは今年度、東京都公立中学校で現在使用されている4種類の教科書に現れる function/form を学年別に調査することにした。この調査にあたっては、萩野浩氏の先行研究(1983)を参考にし、次のような Function list を設定した。

1. 意志を伴う機能

- (1)判断・確かさ・考えなどを述べる求める、それに応答する。
- (2)自分の意図を述べる、相手の意図を尋ねる、それに応答する。
- (3)可能かどうかを述べる、尋ねる、それに応答する。
- (4)能力があるかどうかを述べる、尋ねる、それに応答する。
- (5)義務・必要があるかどうかを尋ねる、それに応答する。
- (6)許可・了解する、しない、求める。
- (7)何かすることを申し出る、それに応答する。

2．感情を伴う機能

- (1)自分の好き・嫌い・興味のあるなしを述べる。相手に尋ねる、それに応答する。
- (2)嬉しさ・楽しさ・満足を表す。
- (3)容認する。誉める。
- (4)自分の欲求・希望のあるなしを述べる、相手に尋ねる、それに応答する。
- (5)謝る、それに応答する。
- (6)感謝する、それに応答する。
- (7)同情の気持ちを表す、相手を気づかう。
- (8)自分の気分を表す。
- (9)不安・心配な気持ちを表す。
- (10)困った気持ちを表す。
- (11)感嘆・驚きを表す。

3．相手の行為に影響を与える機能

- (1)一緒に何かをしようとながす、それに応答する。
- (2)何かをするよう・しないよう依頼する、それに応答する。
- (3)何かをするよう勧誘する、それに応答する。
- (4)何かをするよう・しないよう助言・忠告・注意をする、それに応答する。
- (5)何かをするよう・しないよう指示・命令する、それに応答する。

4．社交上の機能

- (1)日常会った時のあいさつ。
- (2)別れる時のあいさつ。
- (3)帰宅の時のあいさつ。
- (4)紹介の言葉。
- (5)注意をひく。
- (6)祝いのことば。
- (7)電話のはじめの言葉。

2．調査の方法

調査にあたっては、次のことを原則とした。

今年度は伝達活動に直接関係のある機能（意志を伴う機能、感情を伴う機能、相手の行為に影響を与える機能、挨拶等社交上の機能）を扱う。

教科書の本文を中心として、oral interaction に是非とも必要な文を対象とする。

(手紙・日記・詩・などの形式のものや練習問題の部分は対象からはずす)

その文のみでは、機能の予測がつかないものは除外する。

(Ex. Someone stole my gold.- 失望)

中学校における oral interaction activities に活用するのが目的であるから、「いかり」「あざけり」「おどし」などの高度な機能は対象からはずす。

重文や複文など、複数の機能を表すものは別途に分類する。単文もあきらかに複数の機能を表す場合は別途に分類する。

3. 調査結果

調査の結果、中学校3年間の課程で、生徒が教科書を通して習う function/form は 1 . 意志を伴う機能 - 8種類 2 . 感情を伴う機能 - 11種類 3 . 相手の行為に影響を与える機能 - 5種類 4 . 社交上の機能 - 7種類であることがわかった。

その list は次の通りである。

A . B . C . D は教科書の種類を表す。

マス内の数は、出現頻度数を表す。

伝達機能	言語形式	1年				2年				3年							
		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D				
1 意志を伴う機能																	
(1)判断・確かさ・考えなどを述べる・求める、それに応答する	NP will ~ . NP am/are/is going to ~ . NP may ~ . NP must ~ . Maybe ~ . Perhaps ~ . ~ ,perhaps. ~ , I think. ~ , I suppose. I think(that) ~ . I believe(that) ~ .					2	3	3	9	1	8	4	19				1

C A E T (Assistant English Teacher)に関するアンケート調査のまとめ

都の公立中学校の A E T 活用の実態はどのようになっているか、お互いが理解を深め、情報を交換することで、より正常で効果的な対応の仕方が得られるかも知れない。全都の661校にアンケート調査の依頼をしたところ、181校より直接回答があり、新宿(15校)中央(3校)大田(28校)等のようにまとめてご報告を頂いた A E T の個人的なアンケートも100校をこえた。以下、不十分なまとめではあるが、お読みいただき役立ててくださればと思う。

1. 各学校よりのアンケートのまとめ

A E T 導入の年数・採用方法・派遣状況・派遣時数

区	年数	採用方法	派遣状況	派遣時数
千代田区	5年目	A E T個人と契約	全 校	1・2年対象
中央区	2年目		全 校	1年 1クラス15時間
港区	4年目	A E T個人と契約	全 校	
新宿区	2年目	A E T個人と契約	全 校	1・2年 1クラス20時間 3年 1クラス15時間 部・クラブ 20時間
文京区	来 年 度 か ら 導 入			
台東区	4年目	A E T個人と契約	全 校	2年生学級数×15時間
墨田区	3年目	英会話専門学校に委託	全 校	最大学年学級数×8時間
江東区	3年目	British Council委託	全 校	1クラス15時間
品川区	2年目	A E T個人と契約	全 校	1クラス 5時間
目黒区	今 年 度 後 期 か ら 導 入			
大田区	1年目	英会話専門学校に委託	全 校	
世田谷区	3年目	英会話専門学校に委託	全 校	1校50時間以内
渋谷区	2年目	A E T個人と契約	全 校	
中野区	2年目		全 校	2年
杉並区	1年目	A E T個人と契約	希望校へ全校	
豊島区	1年目	A E T個人と契約	全 校	
北区	10年目	A E T個人と契約	全 校	
荒川区	1年目	A E T個人と契約	全 校	ゆとり時間1クラス25時間
板橋区	10年目	A E T個人と契約	全 校	
練馬区	2年目	A E T個人と契約	全 校	2年 1クラス18時間
足立区	8年目	英会話派遣会社に委託 A E T個人と契約	全 校	2年 1クラス 6時間
葛飾区	2年目	A E T個人と契約	希望校へ全校	2年 1クラス 8時間
江戸川区	3年目	英会話専門学校に委託	希望校へ全校	1クラス 8時間
八王子市	ま だ 導 入 し て い な い			
武蔵野市	ま だ 導 入 し て い な い			
三鷹市	ま だ 導 入 し て い な い			
府中市	1年目	A E T個人と契約	全 校	1クラス 6時間
昭島市	3年目	A E T個人と契約	希望校へ全校	
調布市	2年目	A E T個人と契約	全 校	
町田市	1年目	A E T個人と契約	全 校	
小金井市	3年目	A E T個人と契約	全 校	1年 1クラス 6時間
小平市	ま だ 導 入 し て い な い			
日野市	ま だ 導 入 し て い な い			

区	年数	採用方法	派遣状況	派遣時数
---	----	------	------	------

東村山市	1年目	英会話派遣会社に委託	今年度は試験的に1校のみ	
国分寺市	2年目	AET個人と契約	全校	1・2年 1クラス6時間
田無市	来年度から導入			
保谷市	まだ導入していない			
稲城市	まだ導入していない			
狛江市	まだ導入していない			
東久留米	まだ導入していない			
多摩市	2年目	AET個人と契約	全校	2年 1クラス10時間
秋川市	来年度からの導入を検討中			
立川市 青梅市 国立市 福生市 武蔵村山市 東大和市 清瀬市 西多摩郡				
島しょ 大島 第一中学校 第二中学校 三宅村 坪田中学校	まだ採用していない			

AET採用に際して、試験のようなものを実施していますか。(複数回答可)(回答数)
 ア、実施していない(37) イ、面接試験をしている(64)
 ウ、実際に事前に授業をやってもらう(1) エ、イ、以外以外の試験を実施している(8)
 その他「わからない」という回答が14

AET採用基準について

- ア、知らない(97)
 イ、知っている(複数回答可)
 1. 英語を母国語としている国の出身者である(43)
 2. (母国での)教員経験がある。又は、教員免許を持っている。(13)
 3. 英語を母国語をしない人々への教授法を学んでいる。
 又は、その資格を持っている。(1)
 4. 日本人に対して、専門学校その他で、英語を教えた経験がある。(10)
 5. その他(6)

区で採用したAETの人数について

- ア、1人(14) / 2~9人(67) / 11人以上(27)
 イ、英会話専門学校やAET派遣会社が、AETの時間の都合によって派遣している
 ので、その人数は一定していない。(15)
 ウ、わからない(29)

区の各校に対する、AET派遣対象学年について

ア、決まっている(46)

1年(13) / 2年(37) / 3年(0) / 1.2年(5) / 全学年(1)

イ、一応決まっているが、派遣総時間数さえ合えば若干の変更があってもよい(48)

ウ、決まっておらず、派遣総時間数内で各校にまかされている。(47)

エ、その他(1)

区のAETへの報酬について

ア、交通費も含め..... 4,000円/h ~ 9,000円/h

イ、交通費を含めず..... 6,000円/h ~ 8,000円/h

ウ、ミーティングなどの時間も時給で計算(54)

エ、ミーティングなどの時間は無報酬(9)

オ、その他(15) カ、わからない(17)

派遣されているAETの・・・

ア、国籍	USA	88名
	UK	40名
	Canada	26名
	Australia	16名
	New Zealand	8名
	その他	16名
イ、性別	男性	86名
	女性	77名
	男女両方	13名
ウ、年齢	20～29才	83名
	30才以上	70名
エ、経験	1年未満	21名
	1年	26名
	2年	25名
	3年	32名
オ、教員資格	持っている	51名
	持っていない	34名
カ、専門	教育学、英語学、英文学、心理学、地理、経済など(多い順)	
キ、日本語会話	全然だめ	19名
	挨拶程度	70名
	日常会話程度	45名
	議論ができる	14名
	不自由なし	20名

AETの授業内、およびその他での活用法(複数回答可)(回答数)

ア、AET本人による自己紹介、およびAETの母国や海外の文化などの紹介(124)

イ、教科書などの本文のモデルリーディング(81)

- ウ、英語の歌やゲームなどの紹介(75)
- エ、教科書などの dialog の生徒と A E T との練習(68)
- オ、生徒のリーディング指導(66)
- カ、(新出単語などの)発音練習(58)
- キ、新出語句および基本文などの pattern practice(58)
- ク、教科書などの本文の内容についての補足や説明(58)
- ケ、生徒との free conversation(38)
- コ、自主教材の作成(22)
- サ、日本人教師のための研修(19)
- シ、英語の授業以外での活用(13)
- ス、授業内クラブ指導(12)
- セ、授業外クラブ指導(12)
- ソ、hearing contest の補助(10)
- タ、writing 指導(8)
- チ、speech contest の補助(7)
- ツ、その他(15)

- 以下省略 -

英語科として A E T 制度を採用してみて

- 省略 -

一般的に見て A E T に対する生徒の反響は

- 省略 -

A E T 制度そのものを採用しての問題は(複数回答可)

- 省略 -

今後のためにご意見や要望などがあればお書き下さい。

- 省略 -

2 . A E T によるアンケート(回答数106:回答省略)

- Q1 Do you have good communication between yourself and your Japanese teacher?
- Q2 Have you got to know other Japanese teachers in your school ?
- Q3 Can you make good friends with your students in class ?
- Q4 Can you make good friends with your students in recess or after school ?
- Q5 Can you easily contact with the person or the Board of Education that hired you when you are in trouble ?
- Q6 How long do you usually teach in each lesson with your Japanese teacher ?
- Q7 Do you have time to talk about teaching plan with your Japanese teacher before class?
- Q8 Who makes the teaching plan ?
- Q9 What do you think of a typical - Japanese - English class ?
- Q10 Do you have any good idea about team teaching ?
- Q11 Do you take part in school events ?
- Q12 In what circumstances do you feel like quitting this job ?